

## 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	LEONA™ 1330G
供給者の会社名称, 住所及び電話番号	
会社	旭化成株式会社 東京都千代田区有楽町一丁目1番2号 日比谷三井タワー <a href="https://www.asahi-kasei-plastics.com/products/leona/">https://www.asahi-kasei-plastics.com/products/leona/</a> 機能材料事業部 工業材料営業部 03-6699-3388 03-6699-3472 (FAX) モビリティマテリアル事業部 自動車材料営業部 (名古屋) 050-212-2133 050-212-2299 (FAX) (東京) 03-6699-3389 03-6699-3471 (FAX)
テクニカルサービス	機能材料用途開発推進部 044-271-2650
緊急連絡先	03-6890-8677 (Verisk 3E) +1-760-476-3960(Verisk 3E)
アクセスコード	335643
推奨用途及び使用上の制限	
推奨用途	家電用途、電子材料、自動車材料、工業材料等の用途のプラスチック原料。
使用上の制限	以下の用途には使用しないでください。 体内、粘膜、体液、血液、薬液等に触れる医療容器・包装・用具・部品。 食品、飲料水等に触れる容器・包装・器具・部品。 口に触れる玩具。  国外への輸出については、前もって弊社にご相談下さい。

## 2. 危険有害性の要約

化学品のGHS 分類	GHS分類基準に該当しない。
GHS ラベル要素	
絵表示	なし。
注意喚起語	なし。
危険有害性情報	なし。
注意書き	
安全対策	適切な保護衣を着用する。適切な換気がされている場合のみ使用する。
応急措置	気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。
保管	容器を密閉しておくこと。避けるべき物質の近くに保管しない。
廃棄	廃棄物および残渣の処理は地方自治体の規制に従う。
GHS 分類に関係しない又はGHS で扱われない他の危険有害性	熔融状態でガスを発生する。
その他の情報	なし。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別		混合物		
成分	CAS番号	官報公示整理番号		
		化審法	安衛法	含有量 (%)
ポリアミド 66	32131-17-2	(7)-382	(7)-382	50-60
ガラス酸化物	65997-17-3			25-35
ポリ四フッ化エチレン	9002-84-0	(6)-939	(6)-939	10-20
着色料	-	-	-	< 5
二酸化チタン	13463-67-7	(1)-558, (5)-5225	(1)-558, (5)-5225	
カーボンブラック	1333-86-4	(5)-5222	(5)-5222	
酸化鉄	1309-37-1	(1)-357, (5)-5188	(1)-357, (5)-5188	
無機マンガン化合物	社外秘	既存化学物質	既存化学物質	
複合酸化物系顔料	社外秘	既存化学物質	既存化学物質	

4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移動する。 症状が悪化したり継続したりする場合は医師に連絡する。
皮膚に付着した場合	高温物質に触れて火傷した場合、皮膚に付着している溶融物質をできるだけ迅速に水で冷やし、医師に見せ、付着物質を取り除き火傷の手当てをする。 刺激が強まったり続く場合には医師の手当てを受ける。
眼に入った場合	水で洗う。 刺激が強まったり続く場合には医師の手当てを受ける。
飲み込んだ場合	飲み込んだ場合、水で口内を洗う（その人の意識がある場合のみ） こと。 医師の診察／手当てを受けること。
応急措置をする者の保護に必要な注意事項	医療スタッフに物質が何であることを伝え、自身の保護措置にも留意を促す。
医師に対する特別な注意事項	症状にあった治療を施す。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	水噴霧。 泡消火剤。 粉末消火剤。 二酸化炭素（CO2）。
使ってはならない消火剤	なし。
火災時の特有の危険有害性	火災の際は健康に有害なガスが生成されることがある。（CO, HCN, NH3, CO2）
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	火災の際は自給式呼吸器および全身保護衣を着用しなければならない。
一般的な火災の危険性	火災にまきこまれた場合は燃焼する。
特定の消火方法	通常の消火手順を用いる。影響を受けた他の物質の有害性を考慮する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項，保護具及び緊急時措置	関係者以外の立ち入りを禁止する。 個人用保護具については、本SDSの項目8を参照。
環境に対する注意事項	下水、水路、地面に排出をしない。 環境への放出を避けること。 本SDSの項目13に示した通りに流出物を回収して廃棄すること。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	この製品は水と混合せず、水系中で沈殿する。 リスクを伴わずに可能なら、物質の流れを遮断する。 こぼれたものは、掃きとるか掃除機で吸い取り、適切な容器に移し、廃棄する。 廃棄物の廃棄方法については、本SDSの項目13を参照。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策（局所排気、全体換気等）	溶融樹脂を取り扱うときには、適切な排気装置が設置されたエリアでのみ使用する。 成形条件の確認はこちら： <a href="https://www.asahi-kasei-plastics.com/products/forming/leona/">https://www.asahi-kasei-plastics.com/products/forming/leona/</a>
安全取扱い注意事項	全ての安全上の注意を読み理解するまで取り扱わないこと。保護具についてはSDS第8項を参照すること。  近くに火気があると発火する可能性がある。火気、スパーク、裸火、その他の発火源を避ける。 一般的な接続及び接地技術を使って、静電荷の蓄積を防止する。適切な日常管理を行う。 流出した場合、床や表面が滑りやすいので注意する。 加熱した物質との接触を避ける。溶融ポリマーに接触したら、冷水で皮膚を急速に冷やす。 溶融樹脂から発生した煙を吸わないようにする。
接触回避	強酸。酸化剤。
衛生対策	本物質を取り扱った後、飲食や喫煙をする前に手を洗うなど、常に適切な衛生措置をとる。汚染物質を取り除くために定期的に作業衣と保護具を洗う。この製品を使用するときは飲食および喫煙をしない。
保管	
安全な保管条件	混触禁止物質から離して保管すること（本SDSの項目10を参照）。 涼しく乾燥した場所に保管する。 裸火・熱源または発火源の近くで取り扱ったり、保管したり、開けてはいけない。直射日光に当たないようにする。 静電気の放電防止策を施す。
安全な容器包装材料	密閉容器に保管すること。湿気を遮断すること。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度等 標準監視手順に従ってください。

暴露限界値

作業環境評価基準(昭和63年9月1日号外、労働省告示第79号)別表

成分	タイプ	数値	形状
無機マンガン化合物	管理濃度	0.05 mg/m3	
酸化鉄 (CAS 1309-37-1)	管理濃度	0.025 mg/m3	粉塵
日本産業衛生学会 物質	タイプ	数値	形状
LEONA™ 1330G	TWA	8 mg/m3	総粉塵
		2 mg/m3	吸入性画分
日本産業衛生学会－許容濃度 成分	タイプ	数値	形状
カーボンブラック (CAS 1333-86-4)	TWA	4 mg/m3	総粉塵
		1 mg/m3	吸入性粉塵
ガラス酸化物 (CAS 65997-17-3)	TWA	1 繊維/ml	繊維。
二酸化チタン (CAS 13463-67-7)	TWA	4 mg/m3	総粉塵
		1 mg/m3	吸入性粉塵
無機マンガン化合物	TWA	0.3 mg/m3	
		0.2 mg/m3	
複合酸化物系顔料	TWA	0.05 mg/m3	

ACGIH			
物質	タイプ	数値	形状
LEONA™ 1330G	TWA	3 mg/m3	吸入性画分
		10 mg/m3	吸引性粉塵
米国. ACGIH 限界値			
成分	タイプ	数値	形状
カーボンブラック (CAS 1333-86-4)	TWA	3 mg/m3	吸入性画分
二酸化チタン (CAS 13463-67-7)	TWA	10 mg/m3	
無機マンガン化合物	TWA	0.1 mg/m3	吸入性画分
		0.02 mg/m3	吸入性画分
複合酸化物系顔料	TWA	1 mg/m3	粉塵およびミスト。
		0.2 mg/m3	フューム。
酸化鉄 (CAS 1309-37-1)	TWA	5 mg/m3	吸入性画分

生物学的許容値

日本産業衛生学会－生物学的許容値				
成分	数値	決定要因	標本	サンプル採取時間
複合酸化物系顔料	35 µg/l	コバルト	尿	*
	3 µg/l	コバルト	血液	*
* - サンプルングの詳細については原資料をご参照下さい。				

ACGIH生物学的許容値				
成分	数値	決定要因	標本	サンプル採取時間
複合酸化物系顔料	15 µg/l	コバルト	尿	*
* - サンプルングの詳細については原資料をご参照下さい。				

設備対策 適切な全体換気・局所排気装置を設置する。

保護具	
呼吸用保護具	換気が不十分な場合、適切な呼吸用保護具を着用する。
手の保護具	高温の材料、物質を扱う場合は、耐熱手袋を使う。
眼, 顔面の保護具	保護眼鏡／保護面を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	固体。
形状	ペレット
色	各種
臭い	僅か
融点／凝固点	255 - 270 °C (491 - 518 °F)
沸点又は初留点及び沸点範囲	該当しない。
可燃性	データなし。
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	
爆発限界－下限(%)	該当しない。
爆発限界－上限(%)	該当しない。
引火点	> 400.0 °C (> 752.0 °F)
自然発火点	> 400 °C (> 752 °F)
分解温度	> 300 °C (> 572 °F)
pH	該当しない。

動粘性率	データなし。
溶解度	
溶解度（水）	不溶性
n-オクタノール／水分配係数（log 値）	該当しない。
蒸気圧	データなし。
密度及び／又は相対密度	
密度	データなし。
比重	1.2 - 1.6
相対ガス密度	データなし。
粒子特性	データなし。
その他の情報	
絶対粘度	該当しない。
爆発性状	爆発物でない。
酸化能力	酸化性でない。

10. 安定性及び反応性

反応性	本製品は、通常の使用、保管および輸送条件下では安定かつ非反応性である。
化学的安定性	通常状態で安定。
危険有害反応可能性	一般的な使用条件下では、危険な反応は知られていない。
避けるべき条件	分解温度を超える温度を避ける。 混触危険物質との接触。
混触危険物質	強酸。 酸化剤。
危険有害な分解生成物	熱分解温度で、一酸化炭素と二酸化炭素。 有毒ガス。(HCN, NH3)

11. 有害性情報

急性毒性			データが部分的または完全に欠如しているため分類できない。
成分	種	試験結果	
ガラス酸化物 (CAS 65997-17-3)			
急性経口LD50	ラット	> 5000 mg/kg	
無機マンガン化合物			
急性経口LD50	ラット	> 10000 mg/kg	
複合酸化物系顔料			
急性経口LD50	ラット	> 10000 mg/kg	
急性経皮LD50	ラット	> 5000 mg/kg, 24 時間	
酸化鉄 (CAS 1309-37-1)			
急性経口LD50	ラット	> 5000 mg/kg	
皮膚腐食性／刺激性			データが部分的または完全に欠如しているため分類できない。

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激 データが部分的または完全に欠如しているため分類できない。  
性

呼吸器感作性又は皮膚感作性

ACGIH 感作

Cobalt and inorganic compounds, Coとして (CAS 社 呼吸器感作性  
外秘)

Trivalent chromium water soluble inorganic 皮膚感作性  
compounds, including Chromite ore processing, as 呼吸器感作性  
Cr (III), 吸引性画分 (CAS -)

皮膚感作性

日本産業衛生学会 - 気道感作性物質

複合酸化物系顔料 (CAS -) 2 人間に対しておそらく気道感作性があると考えられる物質  
複合酸化物系顔料 (CAS 社外秘) 1 人間に対して明らかに気道感作性がある物質

日本産業衛生学会 - 皮膚感作性物質

複合酸化物系顔料 (CAS -) 1 人間に対して明らかに皮膚感作性がある物質  
複合酸化物系顔料 (CAS 社外秘) 1 人間に対して明らかに皮膚感作性がある物質

呼吸器感作性 データが部分的または完全に欠如しているため分類できない。

皮膚感作性 データが部分的または完全に欠如しているため分類できない。

生殖細胞変異毒性 データが部分的または完全に欠如しているため分類できない。

発がん性 データが部分的または完全に欠如しているため分類できない。

ACGIH発がん性物質

カーボンブラック (CAS 1333-86-4) A3 動物に対して発がん性が確認された物質 (ヒトに対する発がん  
性との関連は未知)  
ガラス酸化物 (CAS 65997-17-3) A2 ヒトに発がん性の疑いあり。  
二酸化チタン (CAS 13463-67-7) A4 ヒトへの発がん性を分類できない。  
無機マンガン化合物 (CAS 社外秘) A4 ヒトへの発がん性を分類できない。  
複合酸化物系顔料 (CAS 社外秘) A1 ヒトに発がん性であると確認済。  
酸化鉄 (CAS 1309-37-1) A3 動物に対して発がん性が確認された物質 (ヒトに対する発がん  
性との関連は未知)  
A4 ヒトへの発がん性を分類できない。

IARC発がん性評価モノグラフ

カーボンブラック (CAS 1333-86-4) 2B ヒトに発がん性の可能性がある。  
ポリ四フッ化エチレン (CAS 9002-84-0) 3 ヒトへの発がん性を分類できない。  
二酸化チタン (CAS 13463-67-7) 2B ヒトに発がん性の可能性がある。  
複合酸化物系顔料 (CAS -) 3 ヒトへの発がん性を分類できない。  
酸化鉄 (CAS 1309-37-1) 3 ヒトへの発がん性を分類できない。

日本産業衛生学会 - 発がん性物質

カーボンブラック (CAS 1333-86-4) 2B ヒトに発がん性の可能性がある。  
二酸化チタン (CAS 13463-67-7) 2B ヒトに発がん性の可能性がある。  
複合酸化物系顔料 (CAS 社外秘) 2B ヒトに発がん性の可能性がある。

NTP発がん性物質レポート

カーボンブラック (CAS 1333-86-4) 発がん性があることが知られている物質  
複合酸化物系顔料 (CAS 社外秘) 合理的に発がん性があることが懸念される物質  
発がん性があることが知られている物質

生殖毒性 データが部分的または完全に欠如しているため分類できない。

特定標的臓器毒性（単回ばく露） データが部分的または完全に欠如しているため分類できない。

特定標的臓器毒性（反復ばく露） データが部分的または完全に欠如しているため分類できない。

誤えん有害性 データが部分的または完全に欠如しているため分類できない。

12. 環境影響情報

環境影響データ

成分	種	試験結果
二酸化チタン (CAS 13463-67-7)		
水生		
急性		
甲殻類	EC50	ミジンコ (ダフニア マグナ) > 1000 mg/l, 48 時間
魚類	LC50	マミチヨグ (Fundulus heteroclitus) > 1000 mg/l, 96 時間
生態毒性	この製品は環境に有害であるとは分類されていない。しかし、大量の流出や繰り返しの流出が環境に有害な影響を及ぼさないとは限らない。	
残留性・分解性	混合物中のどの成分も分解性について利用可能なデータはない。	
生態蓄積性		
土壌中の移動性	この製品は水と混合せず、水系中で沈殿する。	
オゾン層への有害性	データなし	
他の有害影響	その他の環境悪影響（例えば、オゾン層破壊、光化学オゾン生成可能性、内分泌かく乱、地球温暖化の可能性）は、これらの成分からは予想されない。	

13. 廃棄上の注意

地域の廃棄規制	内容物／容器を現地、地域、国、国際規則に従って廃棄すること。 廃棄物処理法の許可を受けた業者に処理を委託する。
---------	---

14. 輸送上の注意

IATA	危険物には該当しない。
------	-------------

IMDG	危険物には該当しない。
------	-------------

MARPOL73/78 附属書II 及びIBC コードによるばら積み輸送される液体物質	該当しない。
---	--------

国内規制	国内輸送については第 1 5 項の規制に従うこと。
------	---------------------------

15. 適用法令

労働安全衛生法	
通知対象物	以下の通知対象物質を含む場合がある。
アンチモン及びその化合物	別表第9 政令番号 38
カーボンブラック	別表第9 政令番号 130
クロム及びその化合物	別表第9 政令番号 142
コバルト及びその化合物	別表第9 政令番号 172
銅及びその化合物	別表第9 政令番号 379
無機マンガン化合物	別表第9 政令番号 550
酸化鉄	別表第9 政令番号 192
ニッケル化合物	別表第9 政令番号 418
酸化チタン(IV)	別表第9 政令番号 191
表示対象物	以下の表示対象物質を含む場合があるが、平成28年6月1日より、「ラベルに関する固形物の適用除外」。詳細は、厚労省/経産省発行の「化管法・安衛法・毒劇法におけるラベル表示・SDS提供制度」を参照ください。
アンチモン及びその化合物	
カーボンブラック	
クロム及びその化合物	
コバルト及びその化合物	
銅及びその化合物	

以下の表示対象物質を含む場合があるが、  
平成28年6月1日より、「ラベルに関する固形物の適用除外」。  
詳細は、厚労省/経産省発行の「化管法・安衛法・毒劇法におけるラベル表示・SDS提供制度」  
を参照ください。

酸化鉄  
無機マンガン化合物  
ニッケル化合物  
酸化チタン(IV)

#### 毒物及び劇物取締法

##### 特定毒物

該当せず。

##### 毒物

該当せず。

##### 劇物

該当せず。

#### 化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律

##### 第一種特定化学物質

該当せず。

##### 第二種特定化学物質

該当せず。

##### 監視化学物質

該当せず。

##### 優先評価化学物質

該当せず。

##### 届出不要物質

該当せず。

#### 化学物質排出把握管理促進法

##### 特定第一種指定化学物質(物質名、政令番号、含量)

該当せず。

##### 第一種指定化学物質(物質名、政令番号、含量)

該当せず。

##### 第二種指定化学物質(物質名、政令番号、含量)

該当せず。

#### 船舶安全法・危規則

該当せず。

#### 航空法・施行規則

該当せず。

#### 火薬類取締法

該当せず。

## 16. その他の情報

#### 引用文献

ACGIH Documentation of the Threshold Limit Values and Biological Exposure Indices  
HSDB® - Hazardous Substances Data Bank  
IARC発がん性評価モノグラフ  
日本化学工業協会 GHS対応ガイドライン、2012年6月  
日本産業衛生学会、許容濃度等の勧告  
JIS Z 7252 : 2019 GHS に基づく化学品の分類方法  
JIS Z 7253 : 2019 GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法－ラベル、作業場内の表示  
及び安全データシート (SDS)  
National Toxicology Program (NTP) Report on Carcinogens

旭化成株式会社 は、本情報と当社製品、または当社製品と他のメーカーの製品の組み合わせが使用されるあらゆる状況を予測できるわけではありません。製品の処理、保管および処分を行う際に安全な状況を確認するのはユーザーの責任であり、ユーザーは不適切な使用による損失、傷害、損害または費用に法的責任を負います。 シートの情報は、現在入手できる最高の知識と経験に基づき記入されています。